

自己点検表

1. 教員個別表

フリガナ ユウキ ヒロヤ 氏 名 結城 裕也	職 名 准教授 人間学部 心理福祉学科	取 得 学 位 修士(社会学) (大学名) 東洋大学 (取得年月) 2005年3月
---------------------------	------------------------	--

2. 教育・研究業績表

(1) 過去5年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
1. 学習到達テストの実施	2009.4～2014.3	生涯発達心理学, 心理測定法の講義等に関連して, 隔週で学習到達テストの実施しており, 学生各人の学習の到達の程度を確認した。学習レベルが未達の場合は, 個人面談を実施し, 今後の改善点等を学生と話し合い学習成果を高める取り組みを行った。このような取り組みを続けた結果, 学生の学習レベルが飛躍的に向上し, 国家試験の成績も期待以上の結果を得ることができた。
2. 授業関連動画の視聴	2009.4～	社会心理学では, これまでに実施された古典的な実験を, 当時の映像を振り返りながら解説した。社会心理学の実験の中には手続きが複雑なものも多く含まれるため, 映像によって理解が深まることが期待される。また, 生涯発達心理学では, 乳児や幼児の行動を映像で視聴することで, より人間の原始的な側面を理解するのに役立つことが期待される。いずれの映像においても, 学生からのフィードバックが大変評価が高いものであった。
3. グループ内討議の実施	2013.4～2016.3	心理学実験において, 想定した結果が得られたか否かに関わらず, どのような場合に想定した結果が得られない可能性があるのかをグループ内で討議し, 各グループで発表を行った。これらの取り組みによって, 教員側が一方的に実験をやらせるのではなく, 結果に対して各人がどのような

<p>4. 双方向型授業の実施</p>	<p>2013.4～2016.3</p>	<p>解釈を行うのかというクリティカル・シンキングを養うことを目指すものであった。このような取り組みによって、why という思考を持たせることに成功した。</p> <p>心理学実験調査実習 1 の講義で、「大きさの恒常性」を題材とした実験実習を担当した。事前に仮説を立てて実験を行い、得られたデータについて解析を行った。その結果について、学生と議論しながら、結果のまとめと考察、それらを踏まえたレポート執筆方法について詳細に説明を行った。なお、レポートの体裁、提出時間等、何度も指導を行い、単なるレポート課題にとどまらず社会に出るための準備としての指導も行った。</p>
<p>5. 双方向型授業の実施</p>	<p>2016.4～</p>	<p>少人数制のゼミ制度で、主に 8 名～10 名の構成員で双方向型授業を実施している。本学科の「地域に貢献する人材の育成」を目的に、函館地域で問題になっている事象についてフィールドワークを通じて明らかにし、その現象に対して社会心理学、産業・組織心理学的視点から、どのようなアプローチで解決へと導くのかを時間を掛けて検討している。なお、データの取得は、地元の中小企業を中心に、インタビュー調査、質問紙調査を実施し、結果を年度末に企業から一般市民へフィードバックしている。</p>
<p>6. プレゼンテーション相互評価の実施</p>	<p>2019.4～</p>	<p>心理学基礎演習 I (論文講読)において、発表学生が PowerPoint を使用してプレゼンテーションをする際に、発表者以外が発表者のプレゼンテーションを「画面」「説明」の枠組みで、5 段階で評価をさせている。また、発表に関して「特に評価したい点と理由」、「改善すればもっと良くなる点」、「疑問点、もっと議論したい点」などの自由記述項目を設け、次週の授業の最初に全員の前で評価をフィードバックしている。それにより、自分のプレゼンテーションが他者からどのように評価されているのかを知ることができ、改善点も明確にできると考えてい</p>

る。

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
1. ジャーナリストの惨事ストレス	共著	2009.12	現代人文社		報道人ストレス研究会 (編) 執筆者:12名	pp.83-89.
2. 心理学基礎実験を学ぶ—データ収集からレポート執筆まで—	共著	2016.3	北樹出版		大和田智文, 鈴木公 啓(編者) 執筆者:17名	pp.20-29.
3. 保育者の保護者苦情対応に関する職務に対するネガティブな精神状態を軽減する方略の検討	共著	2020.3	函館大谷短期大学紀要 第34号	藤村敦・結城裕也・柴田亮		pp.11-15.
4. 保育場面における保護者の苦情内容と苦情に対する保護者の認知:KH Coderを用いた分析	共著	2020.9	人間発達研究センター紀要 人間の発達 第14号	結城裕也・藤村敦・柴田亮		pp.69-76.
5. 若い保育者が保護者苦情対応に関するネガティブな精神状態を軽減するための認知方略(1)	共著	2021.3	函館大谷短期大学紀要 第35号	藤村敦・結城裕也・柴田亮		pp.1-8.
6. 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う遠隔授業が学生の心的健康に及ぼす影響	共著	2021.3	仙台白百合女子大学紀要 第25号	結城裕也・郡山昌明・渡邊兼行		pp.119-137.
7. 新卒5年目以下の保育者が保護者苦情対応によるストレスを軽減するための認知方略	共著	2022.3	函館大谷短期大学紀要 第36号	藤村敦・結城裕也・柴田亮		pp.1-8.
8. 「職業意識」の高い保育者とは?—保育者を対象としたテキストマイニングによる分析から—	共著	2022.3	仙台白百合女子大学紀要 第26号	結城裕也・藤村敦・柴田亮		pp. 17-32.

9. 試作版「保育者の職業意識尺度」の作成	共著	2023.3	仙台白百合女子大学紀要 第27号	結城裕也・藤村敦・柴田亮		pp.7-13.
10. 「コミュニケーション演習」の教育効果に関する検討	共著	2023.3	仙台白百合女子大学紀要 第27号	茂木千明・結城裕也・家子敦子		pp.15-25.
11. 若い保育者が保護者苦情対応をする際のストレス源, 対処行動及びストレス軽減方略のバリエーションの検討	共著	2024.3	函館大谷短期大学紀要 第38号	藤村敦・結城裕也・柴田亮		pp.1-11.

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所
1. 複合災害がもたらした「喪失」: 浪江町民への面接調査から	2013.11	日本社会心理学会第54回大会発表論文集, (沖縄国際大学)
2. 感情労働及び感情労働後の対処方略と心身反応との関連	2014.7	日本社会心理学会第55回大会発表論文集, (北海道大学)
3. Effects of emotional labour styles on the sense of mental and physical burden -coping strategies as parameters-	2015.8	10th Biennial conference of asian association of social psychology (Cebu, Phillipines)
4. 福島原発事故避難者の現状とウェルビーイング(1)	2015.8	日本心理学会第79回大会発表論文集, (名古屋国際会議場)
5. 福島原発事故避難者の現状とウェルビーイング(2)	2015.8	日本心理学会第79回大会発表論文集, (名古屋国際会議場)
6. 保育者の保護者対応に関する職務に対するネガティブな精神状態を軽減する方略の検討	2018.10	学校教育学会第24回年会発表論文集, (北海道教育大学)
7. 保育者の保護者苦情対応に関する職務に対するネガティブな精神状態を軽減する方略の検討—SCATを用いた20代保育者へのインタビュー分析から	2019.8	日本学校心理士会2019年度大会(聖徳大学)

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本心理学会 日本社会心理学会 日本感情心理学会 日本パーソナリティ心理学会	事務局幹事(2010.4-2013.3)	2003.4 2004.4 2005.4 2005.4

III 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)
仙台白百合女子大学	2019	人間発達研究センター助成金	保育者の精神的負荷を軽減しうる保護者からの苦情認知方略の類型化	165,000
仙台白百合女子大学	2020	人間発達研究センター助成金	苦情に対する対処可能性と苦情処理結果の原因帰属が保育者の精神的健康に及ぼす影響	239,200
科学研究費助成事業	2021-2025	基盤研究(C)・研究分担者	保育者の保護者苦情対応に関するレジリエンス向上プログラムの開発	900,000
仙台白百合女子大学	2021	人間発達研究センター助成金	保育者の職業意識尺度の開発	196,600
仙台白百合女子大学	2023	人間学研究センター助成金	「保育者の職業意識尺度」の信頼性と妥当性の検討	266,000

3. 特記事項

(講演会・講習会等)
1. 三八漁業士会研修会(講師)「テーマ:北浜ほっき貝販売促進のための方策」(2018.2)
2. 学都仙台コンソーシアム サテライトキャンパス講座(講師)「心理学実験から見る人間の不思議」(2019.10)
3. 出張公開講座(講師)「心理学実験から見る人間の不思議」(ホテル佐勤)(2021.9)
4. 学都仙台コンソーシアム サテライトキャンパス講座(講師)「説得の心理学—人が動かされるメカニズム—」(2021.10)
5. 学都仙台コンソーシアム サテライトキャンパス講座(講師)「感情労働で苦しんでいませんか?—よりよく働くためのヒントを探る—」(2022.10)
6. 多賀城大学講座(講師)「心理学実験から見る人間の不思議」(2023.5)
7. 学都仙台コンソーシアム サテライトキャンパス講座(講師)「やればできる!」って本当?—心理学研究が解き明かす脱根性論—」(2023.10)

8. 岩切老荘大学講座(講師)「心理学実験から見る人間の不思議」(2023.5)

(社会的活動)

1. FM いるか いきいきライフスクール(解説)「テーマ:心理学実験から人を科学する」(2016.12)
2. FM いるか いきいきライフスクール(解説)「テーマ:心理学で映画を読み解く」(2017.12)
3. キャンパスコンソーシアム函館 アカデミックリンク WG 副座長 (2017.4-2018.3)

(非常勤講師)

1. 仙台徳洲看護専門学校非常勤講師 (2020.4-)
2. 放送大学宮城学習センター非常勤講師(2023.4-)
3. 東京未来大学通信教育部非常勤講師(2024.4-)